

**在スロバキア日本国大使館**  
**政治・経済月報（2016年8月）**

目 次

**内 政**

- ◆「ネットワーク（Siet）」党の連立政権離脱・・・・・・・・・・ 2
- ◆ブレツェリ交通・建設・地域開発大臣の辞任・・・・・・・・・・ 2
- ◆政党支持率調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

**外 政**

- ◆フィツォ首相のロシア訪問・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- ◆フィツォ首相の「V4+ドイツ」首脳会合出席・・・・・・・・・・ 3
- ◆ライチャーク外務・欧州問題大臣のトルコ訪問・・・・・・・・ 3

**社 会**

- ◆EUに関する世論調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

**経 済**

- ◆2017年度予算案の公表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- ◆税制改革案の閣議決定承認・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- ◆スロバキア中央銀行月報（8月）・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

**内 政**

◆「ネットワーク(Siet)」党の連立政権離脱（19日）

ネットワーク（Siet）所属議員7名のうち5名が「架け橋（Most-Hid）」へ移籍したことを受け、連立与党の方向－社会民主主義（Smer-SD）のフィツォ首相、ダンコ・スロバキア国民党（SNS）党首、ブガール Most-Hid党首及びブレツェリ Siet党首（注：13日に新党首に就任）が会談し、その結果、Sietの連立離脱が決定的となった。これにより第三次フィツォ政権は、Smer、SNS及びMost-Hidの3党による連立政権となり、今後Siet所属の2名は連立与党のいずれかへの合流を模索することになる。フィツォ首相は、連立与党はこれまで通り81の議席を維持する旨を強調した。Most-Hidの議席は、Sietからの5名を加えてSNSと同じ15に増加した。

◆ブレツェリ交通・建設・地域開発大臣の辞任（19日）

Sietの連立政権離脱を受け、ブレツェリ交通・建設・地域開発大臣の辞任が発表された。後任には、「架け橋（Most-Hid）」選出のエールシェク（Mr. Arpad ERSEK）交通・建設・地域開発副大臣が昇格する見込み。ブレツェリ交通大臣の他、Sietにより選出されたアダメツ文化副大臣、マーチョウスキー防衛副大臣、カメニツキー農業副大臣も辞任する見込みである（各人の後任は未定）。なお、同じくSietにより選出されたフルンチアル国民議会副議長は既にMost-Hidに移籍しているが、その職にとどまるとみられる。

◆政党支持率調査結果（22日）

世論調査機関Focusによる8月の政党支持率調査の結果は以下のとおり。カリニャーク大臣を巡る金銭疑惑や連立政権内の反目にも関わらず、Smerは一定の支持率を維持している。

| 政党                              | 8月    | 3月の選挙 |
|---------------------------------|-------|-------|
| Smer-SD（方向・社会民主主義）              | 27.0% | 28.3% |
| SNS（スロバキア国民党）                   | 14.0% | 8.6%  |
| SaS（自由と連帯）                      | 13.7% | 12.1% |
| OLaNO－Nova（普通の人々・独立した人達－新たな多数派） | 9.7%  | 11.0% |
| LSNS（我々のスロバキア）                  | 8.9%  | 8.0%  |
| Sme rodina（我々は家族）               | 6.9%  | 11.0% |
| Most-Hid（架け橋）                   | 6.1%  | 6.5%  |
| Siet（ネットワーク）                    | 1.4%  | 5.6%  |

## 外 政

### ◆フィツォ首相のロシア訪問（25日）

フィツォ首相はモスクワを訪問し、プーチン露大統領と首脳会談を行った。フィツォ首相は、対露経済制裁は両者にとって不利益であるとの見方を示すと共に「この件に対して理性的に臨む時がきている。制裁はセンシティブな問題に対して全く期待された効果を生むことはなかった」と述べた。2年続けてスロバキアとロシアの間の貿易が減少しており、フィツォ首相は「二国間両国間の貿易減少には多くの客観的要因があるが、それは何らの努力もせずに単に受け入れるべきものではない」と述べ、来年1月にロシア・スロバキア政府間委員会を開催することで合意した。

フィツォ首相は、ガスパイプライン「ノルド・ストリーム2」の建設問題にも触れ「ノルド・ストリーム2が建設される場合、スロバキアを通過するガスの輸送量への影響に関心を有している」と述べると共に、スロバキアの国益を守り、いかなる場合でもガス輸送量を維持するよう全力を尽くす旨強調した。

### ◆フィツォ首相の「V4+ドイツ」首脳会合出席（26日）

フィツォ首相はワルシャワで行われた「V4+ドイツ」首脳会合に出席し、9月16日にブラチスラバで行われるEU非公式首脳会合に関連したテーマについて話し合った。フィツォ首相は「我々はブラチスラバ会合を失敗に終わらせるわけにはいかない。ブラチスラバでの失敗は欧州の全市民及びEUそのものへの最悪なシグナルとなる」と強調すると共に「テロに対する戦いや域内安全保障だけでなく社会保障も念頭に置いており、重要な社会的テーマもブラチスラバ会合の一部になるはずである」と述べた。

### ◆ライチャーク外務・欧州問題大臣のトルコ訪問（26日）

ライチャーク外相はアンカラを訪問し、チャヴシュオール外相らと会談を行った。ライチャーク外相は7月に発生したトルコのクーデター未遂を再び非難し、民主的に正当性を持つ諸機関への支持を表明すると共に、人権や自由といった分野でヨーロッパ基準を遵守するよう要請した。また、トルコはEU加盟候補国であるだけでなく、移民危機でも重要な役割を果たしており、双方間の開かれた対話の必要性を強調した。

## 社 会

### ◆EUに関する世論調査（1日：スメ紙オンライン）

EUの世論調査期間であるユーロバロメーターの調査によると、スロバキア

人の75%が自分をEU市民だと感じているが、これはEU平均(66%)を上回っている。EUに対するイメージについて、「ポジティブ」と答えたスロバキア人は30%、「ネガティブ」は26%、「どちらでもない」が43%であった。また、ユーロ通貨への支持については、ユーロ圏の平均が70%以下なのに対し、スロバキアでは80%近くに達している。

## 経 済

### ◆2017年度予算案の公表(16日スメ紙)

15日、財務省は2017年度予算の第一案を公表した。同案によると、2017年の財政赤字をGDP比で1.3%に抑えるとされており(2016年は2.1%を想定)、次選挙の前年となる2019年には0.2%の黒字を見込んでいる。政府債務はGDP比で現在の52.9%から2019年には48%に削減するとしている。財務省は、増税(配当税導入、銀行・保険会社・規制産業に対する特別税)と堅調な経済成長による財政赤字削減を目指しているが、専門家は2019年の財政黒字の実現に懐疑的である。第一次及び第二次フィツォ政権でも任期末までの財政黒字達成が掲げられていたが、最終的に高い財政赤字を記録した。

### ◆税制改革案の閣議決定(18日付「N」紙)

17日、政府は税制改正案を閣議決定したが、同案には法人税率の22%から21%への引き下げや15%の配当税導入は盛り込まれなかった。配当税導入にはビジネス界や何人かの閣僚が強く反対している。また、政府の規制下にある企業(主にエネルギー及び通信)に対する特別税の変更も今回は見送られたが、政府は9月の承認を目指している。

閣議決定された改正案には、タバコへの増税が含まれており、タバコ一箱の価格が10セント上昇して2017年の歳入に3200万ユーロをもたらすと見込まれる。また、銀行税の税率も保有資産の0.2%に維持され、これにより2017年は6500万ユーロの歳入増が予想される。自動車登録税は2017年2月から排気量が最大の自動車で4000ユーロに増額されるが、年式の古い自動車には減税となる。同税の下限額は33ユーロに据え置かれた。

### ◆スロバキア中央銀行月報(8月)

#### 1 GDP

欧州統計局の速報値によると、第2四半期のユーロ圏の経済成長率は0.3%にとどまった。小売業の伸びの鈍化、鉱工業及び建設業の生産減少は、ユーロ圏経済における内需の力が弱まっていることを示している。

スロバキア経済は第2四半期に前期比で0.9%成長し、ユーロ圏経済において最も大きな伸びを示した。前年同期比ではよりダイナミックな伸びを見せており、スロバキア統計局の速報値によると、第1四半期の3.4%から第2四半期は3.7%に加速した。2016年の成長加速については商品及びサービス、中でも観光関連の輸出が背景にあるものと考えられる。

## 2 労働市場

第2四半期の雇用率は前期比で0.6%、前年同期比では2.3%の伸びを示した。各部門の最終的なデータは明らかとなっていないが、公共部門やその他の部門における雇用促進あるいは長期失業者の就業支援といったプロジェクト、零細企業の雇用改善が予想を上回る雇用率の上昇に貢献した可能性がある。雇用率の堅調な上昇は徐々に雇用者による労働者不足の認識という形で現れつつあり、雇用者は外国人の雇用により大きな努力を傾けるようになっている。

7月の失業率は、労働市場における好ましい傾向が第3四半期も続く可能性を示している。失業者の数は3100人減少し、季節調整前の登録ベースでの失業率は前月から0.01%下がり9.44%であった。

6月の平均賃金は5月同様に3.6%上昇して885.6ユーロとなり、2016年第2四半期予測のとおり動きを見せた。

## 3 物価

7月の物価は前年同期比で0.9%下落した。前月比では0.4%の下落であり、特にガス、燃料の価格下落、また季節的な要因による食料品価格の下落が大きく影響した。ガス価格は7月に入り4.87%下落している。食料品価格は低水準が続いており、農作物が豊作で在庫が増加していることに鑑みると、この状態は年末まで続くものと予想される。好調な労働市場の動きが徐々にサービス価格に反映されていくと考えられるが、それでも上述の要素を埋め合わせすることはできず、2016年を通してデフレが続くものと予想される。輸入価格の上昇は2017年から現れる見込み。

## 4 貿易

第2四半期の一部の月別統計は輸出の著しい伸びを示している。特に自動車産業が輸出を押し上げたが、鉱工業の他部門の生産も伸びに貢献した。この結果、生産材の輸入需要が増えたが、内需に対応した輸入の方は若干の増加にとどまった。好調な輸出だけでなく、部分的に緩やかな伸びにとどまった輸入が第2四半期における純輸出の著しい増加をもたらした。

(了)

# スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

